

Hachioji MAIL NEWS



輸送サービス労組八王子地本



2024.07.21

No.003



第6回定期大会 主な発言

◆不当労働行為、職場活動の規制・排除について

- ・転勤者を執務フロアで出迎えた際に掛ける一般常識的な労いの言葉すら、一部管理者は「組合活動だ！」と高圧的な対応をしてきた。徹底的な組合活動の規制・排除攻撃に対し仲間の力で抗していく。
- ・人事異動による送別会を、組合員は声を掛けず社友会会員のみで開催。未加入者からも「おかしい」の声。
- ・職場活動の規制・排除がより強くなり、常駐すれば標的になり分断に利用された。運動スタイルの見直しと「八王子駅パンフ配布処分事件」の討議資料を読み合わせ、自信を持って職場活動に臨めるようになった。
- ・協約を悪用し、組合活動規制・排除する会社。安易に逃げず、苦しい道を取る事が会社を糺す道と確信したたかう。

◆安全問題、新たなジョブローテーション施策について

- ・青梅短絡線エアセクションでの架線切断、対策を求め団体交渉を開催するなどたたかいを積み重ねた結果、ハード面の対策が取られる事になったのは大きな成果。ただ、この事象はジョブ異動者に対し簡単な教育で済ませた事が要因の一つ。ジョブローテーション施策の撤廃を目指したたかっていく。
- ・新型の工事用臨時列車運用開始に向け5年前から免許取得や技術習得・学習など努力を積み重ねていたのに、ジョブローテーション施策で車掌に強制異動。異動の理由も一切納得がいらず、モチベーションが保てない。
- ・中長編成ワンマン施策拡大を見据え「車掌がいるからこそ出来るサービスは何か」を沿線の自治体や団体との意見交換を行い、地域との連携を深めてきた。
- ・車いすのお客さま対応であわやの事象も、会社にとって不都合な事なのか隠ぺいした。

◆会社施策について

- ・みどりの窓口、周辺駅が閉鎖された事によって終日混雑している。夏季輸送の多売で窓口増設対応をプレス発表も、現場長は「要員がいる時だけの対応で、体制は変わらない」との発言。お客さまファーストの体制を構築すべきだ。
- ・武蔵野線乗務員基地再編に向け団交開催も、組合軽視の会社姿勢により武蔵野運輸区の設備は問題点だらけだ。
- ・武蔵野線乗務員基地再編で仲間とともに京葉派出分会を立ち上げた。組合掲示板設置の動向で未加入者からも注目されている。千葉の地で輸送サービス労組運動を拡げるため奮闘していく。
- ・統括センター化以降初の労働者代表選挙勝利に向け、未加入者にも対話したり各駅に所信表明を掲示するなどして、残念ながら代表にはなれなかったが組合員の数より多くの票が入った。
- ・統括センター化の一番の問題は、業務は増えるが要員がいない事。現場長は社員からあがる不安の声に耳を傾けない。
- ・グループ会社含め事故・事象が絶えない。「安全はトッププライオリティ」は何処へ？
- ・「融合と連携」のゆがみにより、車両センターでは「①帰属意識の喪失②技術レベル低下③利己主義」などデメリット面ばかり。これが全社的に進行していけば、会社は死に至る。

◆労働条件の向上について

- ・エルダー組合員について、出向会社によって労働条件の格差がありすぎる。本体並みの労働条件にするべきだ。
- ・育児制度が現状とマッチしていなく、子どもが3歳になるタイミングで退職を決意する同僚。制度改正が必要。
- ・社長の健康経営ポスターに対し、健康のために超勤休勤の削減と良い食事を採るために賃金向上を求めている。

職場活動・日常活動を強化して

安全で働きやすい職場を創ろう！